

情報公開文書

課題名

国立成育医療研究センターにおける終末期の積極的治療の実態についての後方視的検討

研究の実施体制

研究責任者：余谷暢之 国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科

研究協力者：東 志勇 国立成育医療研究センター教育研修センター

研究の目的及び意義

本研究は国立成育医療研究センターにおける終末期の積極的治療の実態について明らかにすることを目的としたものです。終末期の積極的治療の有無は、患者家族にとっての終末期の質に大きく関与することが知られていますが、本邦では実態が明らかになっておらず、当センターの実態を明らかにすることで今後の終末期の質の改善に向けた基礎資料となりうると考えています。

研究期間

研究期間：倫理審査委員会承認後から 2023 年 12 月 31 日迄

具体的な手順・方法：

対象となる方の電子診療録から年齢、性別、入院日、死亡日、診断、病棟、出生時体重、オピオイドの使用、緩和ケアのチームの介入の有無および以下の積極的治療についての医療情報を取得します。

死亡当日、7日以内、14日以内、28日以内の

- ・心肺蘇生
- ・気管内挿管
- ・気管切開
- ・ECMO
- ・血液透析
- ・昇圧剤、抗菌薬、輸血の使用

研究対象者の選定方法

対象者：2016年4月から2022年3月までに国立成育医療研究センターで死亡した全患者とします。

外部への試料・情報の提供

当センターの外部に情報を提供することはありません。

インフォームド・コンセントを受ける手続等

入院時に包括同意を取得しており、またまた診療録を後方視的に検討するものであり、個人を特定する情報を取得せず、かつ、人体から取得された試料を用いず、要配慮個人情報を取得して研究を実施しないため本研究において別途同意取得は行いません。

個人情報等の取扱い

氏名、住所等の個人の特特定可能なデータ【対象者一覧表】と、カルテから転記した情報は、研究 ID を用いて連結可能匿名化をした上で、別々に管理を行います。個人を特定しえるすべてのデータは、調査協力研究機関内、もしくは研究責任者（国立成育医療研究センター 余谷暢之）が個人情報管理者となり、厳重に管理を行います。

研究対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益

本研究はカルテ情報を用いた研究であり、研究対象者本人からの新たなデータ収集は起こらないため、本研究にともなう侵襲はありません。

研究に関する情報公開の方法

本研究により得られた研究の成果は、個人が特定されないように統計処理を行ったうえで、学会発表及び学術論文などによって公表に努めます。

研究対象者等及びその関係者からの相談等への対応

本研究に関する問い合わせは以下で対応を行います。

余谷暢之 国立成育医療研究センター緩和ケア科

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1 Tel:03-3416-0181